

日本およびアジア諸国における携帯事業の経営効率性の分析

○ 近藤勝則 (Kondo Masanori)

Keywords : 携帯事業、効率性、DEA、アジア諸国

1 目的

本研究の目的は、アジア諸国の携帯事業者（6カ国16社）の効率性を比較することにより、各事業者の事業運営効率性の相対的位置付け、効率性改善の方向性、および国別の相違点等を分析する。その結果を踏まえ、5G時代における各国の情報通信政策への示唆を得る。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、過去5年間（2014-2018年）の四半期データに基づきパネルデータを作成し、各事業者の事業運営の効率性を Data Development Analysis (DEA) で分析する。また、事業全体の効率性を純技術的効率性と規模の効率性に分割し、各効率性の要素から事業者間の特徴を把握する。その上で、それらの結果から得られた非効率性を被説明変数として、トービットモデルにより被効率性の要因を探索する。

3 結果

DEA分析の結果をみると、2014年時と比べるとNTTドコモ、KDDIは純技術的な効率性は維持しつつも、全体的な経営効率は相対的に低下傾向にある。中国のChina Mobile, China Telecomは純技術的な効率性は高いものの全体の経営効率は低く、韓国の事業者にも同様の傾向がみられる。他方、その他の3カ国（タイ、フィリピン、マレーシア）の中ではタイの携帯事業者の効率性は過去5年間継続的に相対的に高い水準で推移していることがわかった。また、これらDEA分析の結果である効率性スコアを非説明変数としてトービットモデルで分析してみると、総合的な経営効率性に対しては国土面積の広さ、都市化率が統計的に有意に影響をしており、また規模の経済性にかかる効率性については、市場占有率、市場独占状況(HHI)、4Gへの移行割合等も有意に影響していることがわかった。

4 結論

アジア6カ国の携帯事業者16社の経営効率性は事業者ごとの特徴とともに国別の特徴があり、技術進歩や市場の競争状況によって変化しうることを踏まえてそれを踏まえた各国特有の政策への示唆が得られた。

【主要参考文献】

Banker, R. ., Charnes, A., & Cooper, W. W. (1984). Some Models for Estimating Technical and Scale Inefficiencies.pdf. *Management Science*.

Liao, C. H., & Lin, H. Y. (2011). Measuring operational efficiency of mobile operators in Japan and Korea. *Japan and the World Economy*, 23(1), 48–57.